

特集 病院機能評価と病院図書室

— アンケートを実施して —

会誌編集部

1. アンケートの実施

日本医療機能評価機構の病院機能評価事業は、病院図書室にどのような変化をもたらしたのか。病院機能評価における図書室評価の

実際について、受審した施設の図書室担当者を対象にアンケート調査を実施した。アンケート項目および回答施設内訳は表1、2、3のとおりである。

表1. アンケート項目

	診療科数 (科)	病床数 (床)
1	医療機能評価を受けるにあたりどのような準備をされましたか。	
2	訪問審査の際、どのような事を質問されましたか、また返答をどうされましたか。	
3	どのような事を質問して欲しかったですか。	
4	どのような事をほめられました (評価されました) か。	
5	自己採点と評価点の違いはありましたか。	
	a. 違っていた b. 違っていなかった	
	・ どの点で違いがありましたか	
6	受審後、管理者の図書室に対する理解度に変化はありましたか。	
	a. 変化した b. 変化しなかった	
	・ どの点で変化がありましたか	
7	医療機能評価項目に図書室がある事についてどう思われますか。	
8	日本医療機能評価機構に対し、図書室担当者として何を望みますか。	
9	受審した感想を率直にお聞かせください。	

表2. 回答施設の診療科数内訳

1-10科	1施設
11-20	5
21以上	6
計 12施設	

表3. 回答施設の病床数内訳

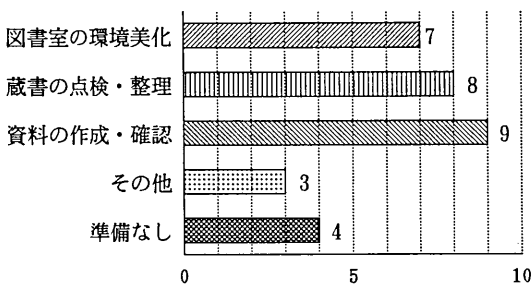
1-200	1施設
201-400	1
401-600	5
601-800	3
801以上	2
計 12施設	

2. アンケートの結果

Q. 1 医療機能評価を受けるにあたりどのような準備をされましたか。(図1)

- (1) 図書室の環境美化
書架の整理・整頓、清掃、配置図の作成、案内表示の作成。
- (2) 蔵書の点検・整理
ラベルの貼り換え、分類・登録、配置換え、目録の更新、製本。
- (3) 資料の作成・確認
評価項目対応資料(図書原簿、雑誌目録、図書室だより、利用案内、図書室運営基準、年次報告、統計資料、予算資料等)の作成・確認、資料の事前提出。
- (4) その他
コンテンツサービスの開始、図書室だよりの作成、研修会への積極的参加。

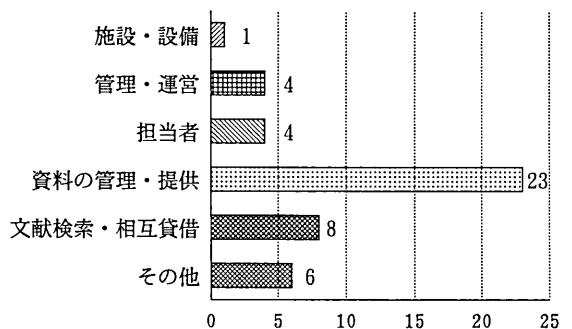
図 1



Q. 2 訪問審査の際、どのような事を質問されましたか。(図2)

- (1) 施設・設備
・閲覧場所と図書室が離れていますが、不便はありませんか?
- (2) 管理・運営
・利用時間は?
・地域への開放はしていますか?
- (3) 担当者
・担当者は何人ですか?
・司書の資格は持っていますか?
・就業前に特別な研修を受けましたか?

図 2



(4) 資料の管理・提供

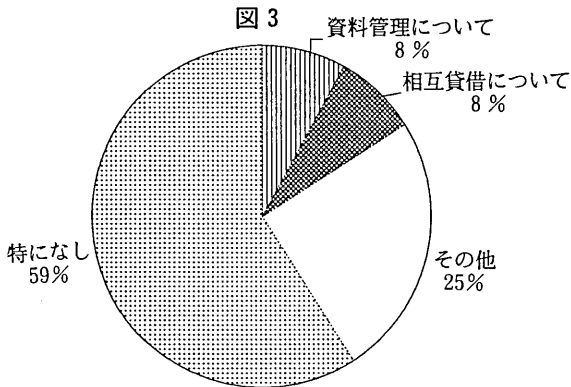
- ・蔵書数は?
- ・購読雑誌数は?
- ・所蔵資料の検索方法は?
- ・図書の分類は何を使っていますか?
- ・図書の貸出方法・期間は?
- ・図書の未返却・紛失はありますか?
- ・図書の紛失対策はしていますか?
- ・図書は中央管理されていますか?
- ・図書等の情報提供はしていますか?
- ・雑誌のバックナンバーは何年間保管していますか?
- ・院内の各種専門職の雑誌・図書等の購入は行われていますか?
- (5) 文献検索・相互貸借
 - ・文献検索は可能ですか?
 - ・文献検索はどのような方法で行っていますか?
 - ・二次資料はありますか?
 - ・文献の入手は可能ですか?
 - ・相互貸借は行っていますか?
- (6) その他
 - ・統計資料は作成していますか?
 - ・予算は?
 - ・実習生教育用資料はありますか?

Q. 3 どのような事を質問して欲しかったですか。(図3)

- ・図書がきちんと中央化(一括管理)されているかどうか。(当院の場合、予算も科毎に分けられ、本は全て各科所有の意

識が強く、一括管理できないのが悩みの種なので…。)

- ・文献（相互貸借）に関する事。
- ・図書室が行っているサービスの内容をもっと具体的に質問して欲しかった。
- ・日本医療機能評価機構の方にも（別の訪問審査の審査員の方のように）図書室についての具体的な質問をして欲しかった。



Q. 4 どのような事をほめられました（評価されました）か。

- (1) 図書室の適正な管理
- ・適切に管理されている。
 - ・教育・研修支援体制が整っている
 - ・図書室（書架）が整理整頓されている。
 - ・分類方法がNLMCで統一されている。
- (2) 図書室機能の有効利用
- ・有効利用を推進する体制がある。
 - ・図書室の機能が充実している。
 - ・24時間利用可能である。
 - ・専任の担当者がある。
 - ・常勤の司書がいる。
 - ・閲覧室が広い（きれい）。
 - ・文献検索・文献入手のシステムがある。
 - ・改善に尽くしている。

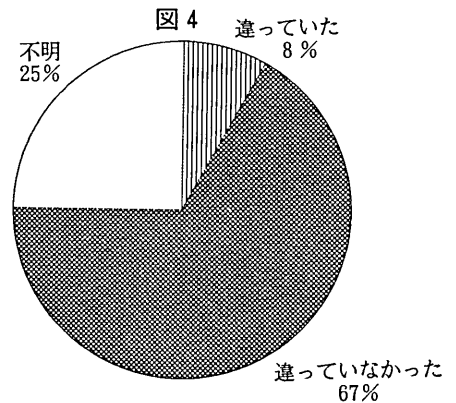
Q. 5 自己採点と評価点の違いはありましたか。
 どのような点で違いがありましたか。
 (図 4)

<違っていた>

- ・図書が中央管理されていないため、さまざまな図書室の業務や利用が制限されてしまう現状なのに、評価としては高い評価を受けている。

<不明>

- ・評価基準が不明瞭である。
- ・何が基準かよく分からないので、評価しようがない。



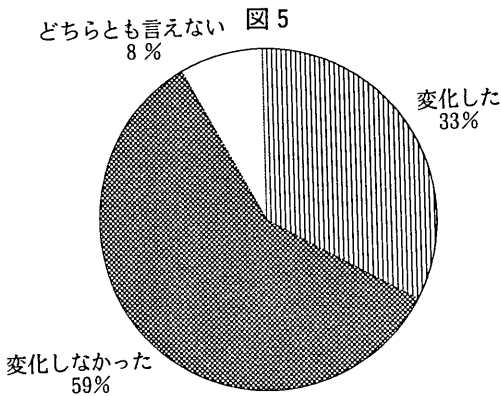
Q. 6 受審後、管理者の図書室に対する理解度に変化はありましたか。
 どのような点で変化がありましたか。
 (図 5)

<変化した>

- ・病院の中で、図書室の立場がより一層認識された。他病院の図書室担当者、管理者からの訪問を受けた。
- ・資料のデジタル化に対応する為に、環境整備などの要望を取り入れてもらえた。
- ・図書室に専任の担当者がある必要性を認識してもらえた。

<どちらとも言えない>

- ・管理者に変化はみられなかったが、職員に図書室の存在を再認識してもらえた。



Q. 7 医療機能評価項目に図書室がある事についてどう思われますか。(図6)

<当然である(必要である)>

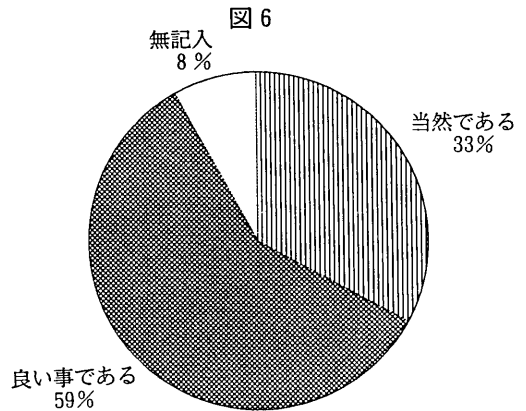
- ・審査員の厳しい意見は、かえって図書室側にとっては利用できるチャンスとも考えられる。また、スタッフの知識向上の確保のため、図書室の質はより高くあるべきで、その為にも項目には必要である。
- ・非生産性部門であるため、予算・人員とも十分でないことが多く、また病院経営計画でも後回しにされることが多いが、高度な医療を提供するために裏で支えている部門なので、評価項目にあって当然である。
- ・あるのは当然だと思うが、全く表面的である。ただ管理者が“その時だけは”「司書を置いていてよかった」と思うだろうから、いいことだと思う。
- ・医学教育の面、質の向上の面では当然あるべきである。

<良い事である(大切である)>

- ・大変良い事だと思う。病院の管理者に図書室の必要性・重要性を認めてもらう良い機会であり、図書室業務の見直しにもなった。
- ・担当者としては大変うれしい事です。管理者へのアピールの一つになるのではないのでしょうか。
- ・病院職員、特に経営者に図書室の存在を

アピールし、整備を促すきっかけになるのではないかと思います。

- ・ソフト面での充実をはかるためには、大切な事だと思います。非採算部門であるため、何か目安なり評価の対象がなければ、なかなか予算がつきにくいと思います。
- ・機能評価を受けた病院は、リストラの場合の対象にならないのではないのでしょうか。
- ・意義は十分あると思う。しかし図書室については評価基準が緩やかだと思う。もう少し厳しい評価基準にすれば、病院図書室のレベルアップにつながるし、管理者の図書室に対する認識も変わるのではないかと。



Q. 8 日本医療評価機構に対し、図書室担当者として何を望みますか。(図7)

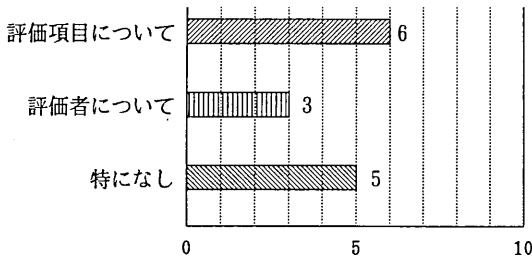
(1) 評価項目について

- ・評価項目をもっと具体化して欲しい。
- ・施設や蔵書に関する数量的、また質的基準を提示していただければと思います。
- ・図書室の質問事項に、その時に即した内容の質問も加えて欲しいと思います。
- ・ハード面については、病院の事情によりなかなか図書室としてのスペースを十分にとれない場合があるので、サービスがいかに充実しているかで判断する部分を

多くして欲しい。

- 評価項目としてせっかく図書室があるのだから、もう少し図書室の役割や司書の働きについて詳しく調べたうえで評価すべきだと思います。図書室があり司書がいれば、それで良いみたいな評価だと、あまり価値がないように思います。
- (2) 評価者（サーベイヤ）について
- 訪問審査員は病院図書室の仕事を理解している方をお願いしたい。
 - サーベイヤに司書が採用されるようになれば、より具体的な評価やアドバイスができるのではないのでしょうか。
 - できればもっと現役の医師かそれに近い人で、実際に医学図書館を利用したことのある人に評価してもらいたかった。
 - 病院組織における図書室の位置付けを明確にし、その必要性をもっと評価してほしい。

図 7



Q. 9 受審した感想を率直にお答えください。

- サーベイヤが図書室に関心を持っているかどうかによって、質問内容が変わってくるようです。当院の場合、文献の検索と入手などのサービスに重点を置かれていたように感じました。
 - 率直な意見としては「よく通ったな」です。他の項目において十分であったため、少々「図書室の機能」の項目は甘かったのでしょうか。雑誌数の多い少ない、図書室のきれい汚いという事よりも、(当
- 院は特に2回の評価を受けているので)「どれだけ改善できるのか、しようとしているのか、また、現状でできる範囲でどれだけできるのか」ということの把握が必要である。
 - 図書室としては特別な質問がなかったので、「これでいいのか?」という感じです。評価内容の「有効利用の推進」については、反省点がありましたので、多少改善できたと思います。
 - 調査時間が思ったよりも短時間であり、書面審査の確認が主であった。蔵書の一つ一つを見て、サーベイヤの興味のある書籍を抜き出して読んだりしていた。図書室に関しては、審査というより見学しているように感じられた。
 - サーベイヤの方が、いかにも役人あるいは管理者クラスの人と思われ、図書室に関しては表面的なことしか理解されていないようで残念だった。
 - 着任早くの時期であったために、よくわからないまま評価されていたという感じでした。
 - 受審できて大変良かった。当日はどんな質問をされるのか緊張したが、あまり難しい質問もなく短時間で終わってしまいました。事前調査の評価項目、当日の質問をもう少し具体的にして欲しいです。
 - 図書室の問題点の認識・改善がよく分かって良かった。サーベイヤの方は大変おだやかな方で、スムーズに説明が出来て良かった。
 - 病院図書室は当院のように兼務の場合や、一人部署が多いと思います。第三者からの審査を受ける事により、今までの不足部分を補ったり、問題点を解決し基準を示される事によって、業務の見直しや確認をする為にも良い機会だと思います。
 - 今後の改善点が分かったので、受審して良かったと思います。
 - 図書室業務を見直し、改善する良い機会になった。